原発放水、ヒーローたちの恐れと覚悟

（Jレスキュー・編　ドキュメント東日本大震災、イカロス出版、東京、2011、p.13-36）

2012 年 6 月 22 日、災害医学抄読会 http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う、福島第一原子力発電所事故は事故から一年たった今なお記憶に新しく、人々に不安を与えている。事故発生後、炉心溶融によるさらなる被害を食い止めるべく放水活動が行われた。その最前線で、最初の高所放水活動をされた消防救助部隊（ハイパーレスキュー：以下 HR）の証言をまとめたものである。

・2011/3/12

初の NBC 災害に対する 3 HR の出動となるが、原発の状況は一切不明。現場一発勝負を覚悟する。15:36 一号機が水素爆発を起こし、消防庁長官は出動要請を取り消し、部隊は引き上げる。

・3/17

原発での放水活動についてのシミュレーションおよび、訓練を行う。22 時過ぎ、招集がかかる。

・3/18

消防総監自らが原発対応への出場指令を発し、隊員一人ひとりを激励。一台一台の車両を敬礼で見送る。0.5mSv をホットゾーンとしているが、300mSv を 3 号機付近で確認と聞かされる。全員参加の最終訓練を実施する。決意と覚悟とともに安定ヨウ素剤を内服する。到着後、現場の確認を行う。毎時 60~100mSv を確認する。瓦礫が散乱しており予定された送水ルートをとることができず、作戦を再構築することとなる。活動時間を短くするため、最短ルートとなる瓦礫の上を隊員が手でホースを延長する作戦を選ぶ。

22:30、作戦を開始する。複数部隊で役割を分担、測定班、活動班を決め、若手隊員は被爆を避けるため汚染検査班となった。海側の送水車、建屋側の屈折放水塔車を部署させホースの延長を延長者でできるかぎりおこなった。その後空間線量の特に高い中、隊員が手作業で瓦礫の上にホースを延長した。

00:30、最初の放水が行われ、20 分間で約 60t の水が注水された。その後、13 時間にわたる 2 回目の放水により 2430t の注水に成功した。

HR は阪神・淡路大震災を教訓に誕生した震災対応のスペシャリスト部隊のことである。
都内 10 本部の内、３HR が首都のテロ・災害対応強化として発隊、NBC 災害の専門部隊となる。震災以前に事故の発生した原発施設を想定した訓練の経験はなかった。

NBC とは核物質（Nuclear）、生物剤（Biological）、化学剤（Chemical）のことで、これらが関係する災害を NBC 災害と呼ぶ。なお平成 7 年の地下鉄サリン事件は、世界最初の非戦時下・無差別 C テロ災害となる。

2011 年 3 月 11 日。この日のことは忘れることができないだろう。多くの命が震災・津波の犠牲となった。そして、原子力発電所に甚大な被害をもたらし、水素爆発を引き起こした。しかし、その陰で被害を食い止めようと、命を救おうと、己の命を懸けた人々がいたことを忘れてはいけない。そして、今後このようなことが起こらないようにする方法を検討し、準備をしていかなければならないと思う。